【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 中間評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている

学校名	神埼市立脊振小学校

1　前年度 評価結果の概要	・児童一人一人の特性に応じた学習指導など個別指導の工夫に努め、児童の学力向上や主体的に学習に取り組もうとする態度の育成を目指してきた。今年度は、児童の主体的な学びや基礎的・基本的な学力の向上に引き続き力を入れていきたい。 ・互いを認め合い、誰もが安心して学校生活を送れる安定した支持的な風土は確立されつつある。今後は、自分のために、学校のために、地域のために何ができるのか、何をすべきなのかを自ら考えて行動できる児童の育成を目指していきたい。 ・豊かな自然や心温かい地域の方々に支えられ取り組んだ体験学習や交流活動を通して、児童一人一人の感謝の気持ちやそれを表現する態度は高まってきた。今後は「人材バンク」の更なるアップデートを図り、中学生や地域の方々と連携を深め、脊振のよさを発信していく学校づくりに努める。これらの活動や交流を通して、郷土や学校を愛する、誇れる児童を育成していきたい。
2　学校教育目標	**脊振を愛し　進んで学ぶ　たくましい子どもの育成**
3　本年度の重点目標	**①「自ら学ぶ力」を育み、学力向上を実現する。（ICT利活用の推進、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実）** **②全ての学習と活動に目標をもたせ、成果や過程を価値づけて、自主性を育てる。** **③学校の魅力度UP！　「脊振で学ぶといいことあるよ」を子どもの姿で実現する。**

4　重点取組内容・成果指標　／　中間評価　／　5　最終評価

(1)共通評価項目

重点取組 評価項目	重点取組 取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価 進捗度（評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
●学力の向上	○指導方法の工夫・改善、ICT利活用等を図り、学ぶ楽しさを実感する授業の実現を目指す。	○話し合う活動を通じて、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童を80%以上	・一人一台端末を適切に用いて、児童が自分にふさわしい学び方や学習方法を身に付けることができるようにする。 ・「脊振小授業スタイル」の中の対話的な活動の充実を図る。 ・朝読書だけでなく、空き時間などにも積極的に読書の時間を取り入れるようにし、一人年間貸出冊数の目標を達成する児童が7割を目指す。	B	・一人一台端末を用いて、既習事項の想起や、練習問題による習熟を行った。引き続き、児童の発達段階等に応じた学び方の習得を図る。 ・授業で話し合う活動を位置づけることで、自分の考えや意見を伝える児童が増え、お互いの考えを深めることができている。 ・朝読書以外の時間（給食後の待ち時間）にも読書ができる仕組みをつくった。また、夏休み前には、各学年の夏休み前目標冊数を設定したところ、1～4年生（6名）は全員達成、5・6年生は11名中6名が達成した。今後も、読書活動の充実を図り、目標を達成できるように、読書への啓発を続けていく。		・		・	研究主任（坂田） 研究副主任（小林） 図書館教育主任（田川）
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○神埼市の「四か条の誓い」や脊振小の「石の門の教え」をもとに、感謝の気持ちや礼儀正しさ、思いやりの気持ち等を育むために、教育活動全体を通して繰り返し指導し、90%の児童が生活の中で意識して実践できるようにする。	・人権集会・教室の実施 ・全校で「ぽかぽか広場」（友達の良い行動の紹介）に1年間通して取り組み、定期的に児童からカードを紹介する時間を設け、友達の良さ見つけへの意識を高めていく。 ・人権・同和教育についての職員研修を行う。 ・「ふれあい道徳」を通じて、保護者や地域の方々にも本校の道徳教育の実際を知ってもらう。	A	・定期的に人権集会を開き、感謝や思いやりの気持ちを育んだ。 ・行事ごとにぽかぽかカードを書くことで、ぽかぽかの輪が少しずつ広がってきた。また、自主的にぽかぽかカードを書く児童も数名いた。 ・「ふれあい道徳」を通じて、保護者にも授業を参観してもらい、感想をいただいた。学校での道徳教育に対する保護者の理解を深めることができた。		・		・	人権・同和教育主任（田川） 道徳科主任（坂田）
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止について組織的対応ができていると回答した職員が90%以上	・毎月1回、全職員で児童の様子を共有するための連絡会を行い、組織での対応を進める。 ・月に1回心に関するアンケートを実施し、気になる児童の早期発見・対応を図る。	A	・毎月のなかよしアンケートの実施、連絡会での情報共有を行った。児童の気になる様子や行った対応等について細やかに共有することができた。		・		・	生徒指導主任（真島） 教育相談主任（石田）
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・児童の得意なこと、がんばっていることを披露できる場を設けることで、自信を持ったり、達成感を味わうことができる機会を作る。 ・スピーチタイム等で将来の夢や目標をテーマに設定し、自分の夢や目標について考えたり、友達の話を聞く機会を作る。 ・授業及び各種体験活動において、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行わせるなど主体的に学ぶ態度を育成する。	A	・スポーツイベントは開催することができていないが、20分休みや昼休みの外遊びは主体的に行う児童が増えている。 ・朝の歯磨きチェックを行った結果、月に一人忘れる児童がいたが、ほとんど毎日歯磨きをすることができていた。 ・朝食や睡眠が熱中症予防になる等の保健指導を行った。児童の会話の中に生活習慣の意識が見られた。 ・避難訓練を行う前に、事前指導を丁寧に行い、活動の意義を理解した上で参加せるようにしたことで、真剣に訓練に取り組むことができた。		・		・	総合的な学習主任（真島） 生活科主任（真島） 縦割り班担当（真島）
	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	
●健康・体つくり	次の中から1つ以上を選択 ❶「運動習慣の改善や定着化」 ❷「望ましい生活習慣の形成」 ❸「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ❹「安全に関する資質・能力の育成」 ❺「健康を考えて行動できる能力の育成」	❶授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上 ❷「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身についている児童70%以上 ❸「健康に良い食事をしている」児童70%以上 ❹児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする ❺「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童70%以上	・保健体育委員が中心となって、スポーツイベントを開催する。その際に、運動や遊びを推奨する声かけも行う。 ・毎朝の健康観察時に朝食後の歯磨きの有無を確認し、歯磨きの習慣化を図る。 ・早寝・早起き・朝ごはんに関する保健指導、アンケート調査を行い、望ましい生活習慣の形成を図る。 ・避難訓練において、児童及び職員の動きの理解を図り、状況に応じた避難を実践させる。 ・自身の健康に関する意識調査および指導を行い、生活や行動を振り返る機会を設ける。	B	・スポーツイベントは開催することができていないが、20分休みや昼休みの外遊びは主体的に行う児童が増えている。 ・朝の歯磨きチェックを行った結果、月に一人忘れる児童がいたが、ほとんど毎日歯磨きをすることができていた。 ・朝食や睡眠が熱中症予防になる等の保健指導を行った。児童の会話の中に生活習慣の意識が見られた。 ・避難訓練を行う前に、事前指導を丁寧に行い、活動の意義を理解した上で参加せるようにしたことで、真剣に訓練に取り組むことができた。		・		・	体育科主任（原口） 養護教諭（石田） 安全教育担当（坂田）
	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日を設定したり、日々の目標退勤時間を決めたりすることでそれぞれのタイムマネジメント力を高める。 ・連絡掲示板を新たに設け、連絡会や職員会議等の時間削減を行うことで、業務の効率化を図る。 ・業務内容について職員で話し合い、スリム化及び担当事務の平準化を図り、年休を取得しやすい環境づくりを行う。	B	・時間外在校等時間の平均は9月までの段階で27.2時間であったが、個別には上限を上回っている職員もいるので、さらなる意識向上が必要。 ・連絡掲示板の活用により、無駄なく情報を共有することが可能になり、全校での動きも把握しやすくなった。 ・業務分担をチームにすることで、一人一人の負担軽減につながり、行事等の見直しも図れた。また、年休を取得しやすい環境づくりもできた。 ・カリキュラムマネジメントのロードマップを作成することで、学校全体の動きが分かり、計画的に行事等を進めることができた。		・		・	教頭・校長
	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上 （特別支援教育）	○特別支援についての研修を深め、学級の指導にいかしているとアンケートで回答した教職員が90%以上	・特別支援教育に関する研修会を計画的に実施する。 ・家庭、福祉、医療などの関係機関と連携し、必要に応じてケース会議を行う。	A	・夏期に一度、外部講師を招聘しての校内研修を行った。事後アンケートでは、応用行動分析や児童の見取り方など今後の実践に生かしていきたいという感想が多く出た。		・		・	特別支援教育担当 （田川）

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組 評価項目	重点取組 重点取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価 進捗度（評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
○地域連携教育の充実	○地域連携力の拡大	○地域の方々との交流活動についてのアンケートで保護者の肯定的回答が90%以上	・ホームページのイベントギャラリーで地域連携教育活動の広報を月1回以上行い、チーム脊振の充実を図る。 ・既存の「人材バンク」を整備するとともに、地域人材を活用したカリキュラムの見直しや組織体制の確立を目指す。	B	・地域の方々との交流活動についてのアンケートで保護者の肯定的回答は100%を達成した。広報活動のさらなる充実を図る。 ・「人材バンク」整理については、学校運営協議会にも投げかけ、地域からの情報を取り入れるよう見直しを図った。今後も、積極的な人的財産の確保に努める。		・		・	教頭・教務
○	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	

●…県共通　○…学校独自　◎…志と誇りを高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・